

TCO削減と管理者負担の軽減

メールは、社内外だけでなく国際的にも標準的なインフラとなる中で、基幹システムと同様に重要性を認識することが不可欠となってきました。ところが基幹システムではかならず十分な運用管理がなされている企業が多いのになら、メールシステムの運用管理は必ずしも適切に行われているとはいえないのが現状のように思います。

もともと日本でメールシステムというと、UNIXやLinuxの汎用機にメールサーバソフトを組み合わせて、メールサーバに仕立てるのが主流でした。多くは小規模のシステムの集まりとして稼働させ、専門知識のある技術者がボランティア的に管理してメール環境を維持しているケースが少なくありません。大がかりなメールシステムは主流ではなかったわけです。

しかし現在のようにビジネスに不可欠となったメールは、規模の大小にかかわらず、全社の統合システムとしてトータルな管理が求められています。なぜならば、企業活動をより円滑に運営するためには、高い信頼性やパフォーマンスがメールシステムに求められるからです。万メールが使えない事態に陥ると、ビジネスは混乱し、企業に多大な損失をもたらしかねません。

またメール環境について多数いるわけではない技術者に依存したままでは、技術者に対する負担は増大するばかりです。拡張やメンテナンス、バージョン管理などに多くの手間と時間を費やさなければならぬのでは、TCOは増大していく一方です。

信頼性やパフォーマンスを向上させるには、ハードとソフト双方の効率性の高い運用管理やセキュリティ対策が欠かせません。一方で、コストや管理者への負担が増大しないメールシステムへの対応を考えなければなりません。

このようなメールシステムの課題を解くものとして、米国Mirapoint社のメールに特化したアプリケーションサーバ「MIRAPOINT」が注目

管理者を強力にサポートする 統合運用ツール

NECソフト(株)ITソリューション事業部
iネットソリューション部 技術マネージャー

松永 俊章

されています。NECソフトでも採用しているMIRAPOINTは、専用OSにより高性能と簡易なメンテナンスを実現し、柔軟で信頼性の高いメールシステムを構築することができます。

複数台のMIRAPOINTを一元管理

NECソフトでは、MIRAPOINTをサポートし、優れた運用管理機能をさらにアップさせる「Miradirector」を開発しています。誰にでも使いやすい、日本語環境下でのGUI (Graphical User Interface) 機能による運用管理を実現します。Miradirectorは特に、大量のユーザーアカウントを取り扱う大企業やデータセンターのMIRAPOINTシステムの管理者を強力にサポートします。MIRAPOINTシステムにおいて、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を含めた複数台のサーバを個別に管理すると、作業も煩雑になり管理者の負担も増加します。また、統合的な運用管理により、管理者負担を軽減させると同時にTCOを削減します。

Miradirectorは、ユーザー情報の一括登録や修正、検索が可能であり、大量のユーザーアカウントの処理を簡略化させます。ユーザーアカウントをGUI画面で日本語表示のもとに管理でき、社員マスターなどCSV形式ファイルをインポートすることで一括して登録や修正を行えます。またユーザーアカウントを組織に



関連付けてわかりやすく管理することができ、新規導入や人事異動、組織変更などにもなう所属ドメイン変更をマウス操作だけで行うことができます。

複数台のMIRAPOINTを一元管理することも大きな特徴です。1つのGUI画面からコンフィグなどの設定情報の表示や修正が行え、稼働状況の監視を一括して行うことができます。また大規模なMIRAPOINTシステムで欠かせないディレクトリーサービスとの連携機能を提供します。ディレクトリーサーバの情報から、MIRAPOINTのユーザーアカウントを自動更新や削除することができます。MIRAPOINTやディレクトリーサーバといった情報の格納先を意識しないで、ユーザーアカウントの一元管理を行うことができるのです。